



(7) 市内が広域であることは、火災発生時にも懸念が多い。平成28年の駅北大火後、どのような対策を行いましたか。

(8) 被災された方の二次避難先として、公営住宅を一時的に無償で提供することを検討すべきと考えますが、いかがですか。

(9) 人命や生活に関わるこれらの対策には、少なからぬ予算がかかりますが、何よりも優先して取り組むべきと思いますが、どう考えていますか。

## 2、当市のにぎわいの拠点施設、(仮称) 駅北子育て支援複合施設について。

昨年12月、国立社会保障・人口問題研究所が公表した2050年の推計人口は、人口減少・少子高齢化に歯止めがかからない現実を突きつけました。当市の人口は、段階的にほぼ半減していく予測となっていますが、本当に必要な施設となり得るものなのか伺います。

(1) 債務負担行為とする理由及びメリット、デメリットは何ですか。

(2) 当市の財政は豊かなのか。自由に使える財源はありますか。

(3) 令和2年度以降、出生数は減少傾向にあるが、どう分析していますか。また、市内に人口減少対策推進本部と少子化対策プロジェクトチームを設置したが、建設についての見解はいかがですか。

(4) 1月29日に「ビーチホールまがたま」の多目的ホールで、施設内に設置を計画している室内遊戯場と同規模の遊びスペースを視察しました。場内が広過ぎる印象を持ったが、どのように考えていますか。

(5) 元日に震度5強の地震があったが、建設予定地は津波等の心配のない場所なのですか。

(6) 費用対効果の薄い箱物建設は、建設費そのもののほか、毎年の維持費もかかり、多くの市民から疑問の声が出ています。既存施設を活用することで十分と考えるが、いかがですか。

## 3、柵口温泉権現荘の民間譲渡について。

糸魚川市は、市が直営する日帰り入浴施設「柵口温泉権現荘」の民間譲渡の案件について、当初予定していた市議会3月定例会での議案提出を見送ることの考えについて伺います。

(1) 1月13日に行われた住民説明会をどのように受け止めましたか。

(2) 1事業者からの応募であったが、譲渡に係る公募型プロポーザルで示された企画提案書類等の内容の評価は、優れていたのですか。

(3) 当市が譲渡先の優先交渉者として選んだ企業であるのに、時間を要しているのはなぜですか。

(4) 経営能力を含めた企業の信用調査の状況はどのようになっているのか、進捗が遅いように思うが、いかがですか。

(5) 4月以降も日帰り入浴営業は市直営で継続する意向のようですが、令和6年度の売上予算が令和5年度と同じ数字で、達成できるのですか。

(6) 東館の空調設備熱源は全く機能しないのですか。

(7) 大規模修繕費として概算額7,357万4,000円とあるが、修繕した上で、宿泊も含めて直営で行う考えはないのですか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、改めて地震・津波への備えの重要性を感じております。

2 点目につきましては、市民の皆様が自発的にいち早く避難行動を取ったことは、これまでの防災訓練が生かされたと感じております。津波警報に伴う避難行動については、課題も見受けられ、引き続き周知していく必要があると考えております。

3 点目につきましては、京ヶ峰区では、造成ブロックの損傷が多数発生し、中央区等では液状化と見られる影響による建物の傾きなどが確認されております。

要因については、今後、詳細な調査を行ってまいります。

4 点目につきましては、気象庁により津波警報等が発表された場合、Jアラートと連動した自動音声による放送と安心メールにより周知されることとなっており、すぐに避難行動を取っていただくことが重要であると考えております。

5 点目につきましては、大規模な災害発生時は支援が行き届かないことが想定されることから、各家庭や自治会における備蓄について啓発しております。

6 点目につきましては、国に働きかけてまいります。

7 点目につきましては、耐震性防火水槽の整備や大規模火災を想定した住民参加型消防訓練の実施、40 ミリホースの配備を行い、地域住民による初期対応及び消火協力体制の強化に努めております。

8 点目につきましては、空いている公営住宅を提供することは可能でございます。

9 点目につきましては、被災者への支援、人命や生活に関わる対策について、最優先に取り組んでまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、会計年度は、原則、単年度となっておりますが、複数年にわたる場合には、債務負担行為等を設定し、進めております。

2 点目につきましては、地方交付税の交付を受けており、これらの一般財源を活用して各種施策を実施いたしているところであります。

3 点目につきましては、若年人口の減少に伴い、今後も出生数の減少が予測されますが、安心して出産や子育てができる環境を整えることが、重要だと考えております。

4 点目につきましては、想定利用者数も含め、検証したものでございまして、適切な規模であると認識いたしております。

5 点目につきましては、津波ハザードマップでは、建設予定地のせり上がり浸水深は50センチメートル未満となっております。

6 点目につきましては、市街地におけるにぎわいづくりを目的に、子育て世代をはじめとする多世代が交流できる場を目指して整備いたしたいものであります。

3 番目の 1 点目につきましては、市民から様々な意見を聴く機会となったと考えております。

2 点目につきましては、事業者の提案は、設置目的に沿ったものであり、市の方針と合致していると評価いたしたものであります。

3点目と4点目につきましては、財政支援の要望内容や譲渡後も安定的に継続して運営していきけるのかを含めて、慎重に調査いたしているところでございます。

5点目につきましては、売上げの増加に向け、引き続き集客に努めてまいります。

6点目につきましては、設備の老朽化により、冷暖房がお客様のニーズに対応できない状況であります。

7点目につきましては、今後、市が継続して運営していくことは困難であることから、民間譲渡の方向で進めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

それでは、2回目の質問に入ります。順番はこのとおりとさせていただきます。

(1)でございますけれども、1月1日の元日にかなりの揺れを感じました。私自身も、会社員であった平成23年3月11日の東日本大震災のときと同じぐらいの揺れの大きさの地震だと思いました。昨年5月5日に起こったところだと思っておらず、恥ずかしながら、すっかり忘れていた状況でありまして、本当に恥ずかしかったということなんですけれども。幸い当市の人的な被害というのは報告がなかったので、それは本当によかったというふうに思っております。

(2)でございます。夕方、消防分団員の方が個別に安否確認をしていただきまして、大変心強く、ありがたく思いました。いろいろな状況や場面において、ふだんの防災訓練等が活かされないところもあろうかと思っておりますけれども、今後はどのようにして、市民の皆さんの生命や財産を守るための周知をしていくのか、そこら辺をちょっとお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

市民の生命、財産を守るためには、やはり日頃からの訓練も必要ですし、また、こちらから発信する地震・津波、また災害に関する知見を広めていただくことが大事だと思います。何よりも大事なことは、今までこの2日間、各議員から出されてまいりました自助、共助、公助が一番大事だと思います。

そんな中で、公助ができること、できることといえば災害前、特に災害前ですね、市民の皆さんと一緒に災害に備えるといったことが大切かと思っております。今後も、三助が連携して、取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ありがとうございます。

早川では、この16時30分頃、災害対策本部に連絡をしたと。要は市役所の窓口で電話を入れたらしいんですけども、ちょうど守衛さんが出られたそうなんですけども、その後、連絡がなかったというようなことで、実際どうしていいか分かんなかったというんでしょうか、その指示してもらいたかったらしいんですけども、市の職員の方が来てくれたので助かったというようなことなんですけども、避難所の指定もなかったということなんですけども、今後の連絡網というのは、どういうふうに考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

やはり今回の地震・津波によりまして、市民の皆さんも認識されたと思うんですが、あらかじめ予測できる災害ですと、また、市のほうからいろんな情報を出したりできるんですが、本当に突然の、ただ突然、想定外というのは通用しないんですが、そんな中で、やっぱり今回課題であります情報連絡体制、これをやっぱりいち早く整備いたしまして、市民の皆さんと共有して、情報連絡体制を取れるようにしていきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

今後も起こり得ることなので、周知徹底をお願いいたします。

続きまして、3番目でございます。1月の29日の総務文教常任委員会で、京ヶ峰地区と中央区を視察いたしました。外からでは、家の中に入らないと分からないこともあって、外からそんなにかうというようなところもあったんですけども、糸魚川市のこのホームページのトピックスに米田市長が、能登半島地震に対する緊急要望について、内閣府や総務省に要望活動を行ったとありました。造成ブロック及び液状化等による住宅地、敷地の損壊に対する支援、災害救助法の応急処理の制度拡充、特別交付税等の財政措置などと書かれていましたが、その感触的にはいかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりこのたびの能登半島地震において、国の支援や、また県の支援、そういった事柄が結構あ

るわけでありますが、しかし、当市の糸魚川市の京ヶ峰地区、または中央区については、やはりそういった該当に当てはまらない状況が見受けられるわけでございます。そういう中で、ぜひとも国の支援、県の支援をしっかりと位置づけてほしい。そして、また一連の地震であるということで、県の指定はしていただき、かないようにということと、また、当市といたしましても、やはり市単独の支援や援助というものを行っていききたい。それに対しての支援をいただきたいという形で要望に行ってまいったわけでございますが、しかし、なかなか、すぐ、はいそうですかというわけにいかないと思っておるわけであります。そういった我々、今、実情、非常に大変な状況を説明し、そしてそれについて検討していただいて、また、ある期間を見て、またお願いに行きながら、どのような状況になっているかという形で進めていききたいと思っております。1回で全て、我々の要望をのんでいただける、聞いていただけるという状況にないと思っております。

そのようなことで、市単独で行うこと、そしてまた、県市長会であったり、北信越市長会であったり、そういうまた上部団体と連携を取りながら進めていききたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

米田市長、ありがとうございます。大変分かりやすく説明をしていただきました。大変心強く思いました。

本当にキャッシュというんでしょうかね、現金で解決できる方というのは少ないと思います。同じ場所に住み続けるには、やっぱり補助金の給付額が、実勢額とかなり乖離しているというふうに思っておるんですけども、そこら辺はどう考えておりますでしょうか、改めていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

市長と一緒に要望に行って、そこら辺のところも、あくまでやっぱり個人の財産だということころはあるんですけども、やっぱり当市の状況、高齢化率が40%を超えている。そういう状況も話す中で、何とか支援のほうを拡充していただけないかということころは、粘り強く行ってるところであります。

市のほうでも、今できる範囲の造成ブロックの補助ですとか、今、応急の家屋の修繕、国の事業に上乘せをするような形でやっているとところは精いっぱいやっているとあります。限界はあるかもしれませんが、引き続き地方の財源をしっかりと確保する中で、できることだけは、また国のほうの支援もまだまだこれで全てだというふうに思っておりませんので、情報をしっかりとつかみながら、皆さん方お一人お一人の、ケース・バイ・ケースの状況を見ながら対応していききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

よろしく願いいたします。

（4）でございます。今回2回ほど、この放送があったのではないかと思うんですけど、それで、やはり聞き取りにくかったというような声がありましたので、やっぱりできれば電話窓口の設置というんでしょうか、何かここへかければ何かつながるといっていいんでしょうかね、そういうアナウンスが聞こえるというような、そういったことができないものかということで質問させていただいたんですけども、改めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

今回の災害に限っていえば、窓口を設置する余裕はないかと思っておりますので、ただ、ほかの災害でありますと、災害対策本部に一定の職員おりますので対応できるかと思っておりますが、特に津波の場合、一刻を争いますので、逆に問い合わせている間もないのかなというふうに私は捉えておりますので、今のところ設置する予定はありませんが、ただ、対策本部が設置されていけば、渡辺議員も16時30分ですかね、問い合わせるといっていいので、対策本部を設置されてますので、職員が対応できれば、当然、返答はするかと思っておりますが、窓口的なものは、ちょっと設置は厳しいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

状況は分かりました。

5番目でございます。市内には、5か所、備蓄品があるというふうに聞いたんですけども、何日分用意されておるんでしょうか。全域はやはり難しいと思うんですけども、例えば核となるような地区の公民館に備蓄等、置けないものなのか。あるいは、被災地では水に困ったという声があるということで、しばらく使用していない井戸の水を飲み水として可能かどうかというんでしょうか、事前に検査利用というんでしょうかね、そういったことをできないものなのかということなんです。そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

それでは、私のほうから備蓄の件について答弁させていただきます。

まず、これも再三出ておりますが、やはり個人で用意していただきたい。ただ、3日も4日も用意するというのは、リュックに入れてくるというのは、特に高齢者は大変だと思いますので、本当

に今回の地震を振り返れば、1食ないし2食、それから高齢者の方ですと、ふだん飲んでいるお薬、ただ慌てているとその薬もリュックに入れてくれるかというのも、ちょっとなかなか難しいのかなと思います。そんな中で、重い水を担いでくることなく、例えば500のペットボトル1本入れてくるだけでも違うと思います。なんで、3日間は個人で、その後の2食分、4、5食目を備蓄しております。

今、渡辺議員おっしゃられた備蓄倉庫については、市内に5か所ありますが、ただ、駅北倉庫、並びに青海地域の八久保倉庫につきましては無人ですので、人間が、人間というか人が口に入れるものはちょっと危険だということで、各地域1か所ずつ食料品を、4食目、5食目、それ以降は流通備蓄等で対応することとしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

井戸の水の使用につきましては、私ども、今飲み水を基本に給水しているわけで、実際に断水した場合には、私ども、応急給水をさせていただくことになります。基本的には、水道の水を飲んでいただくわけですが、井戸の水については、やはり毎回検査していないと、飲料水として適切ではございませんので、この井戸の水については、極力飲まないようなことで、皆さんに周知しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

そうですね、できれば前もってということなんで、こういう機会なんですけども、例えば井戸の水があって、これが通常今飲めるのかどうかというのを、例えば飲むことが可能なのかどうかというのを事前に検査したいという場合、何か手だてというんでしょうか、そういったものを全く考えてないということなんでしょうか。今の答弁ですと、水道水を極力使ってもらいたいというのは、それは分かるんですけども、こういった非常時のときに、やはり井戸があって、それが、ふだん使っていないんだけども、そういったことが可能であれば、それを使えてもいいんじゃないかと、検査してオーケーであれば、そこら辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

井戸水については、市で直接所有しているものではなく、基本的には個々に所有しているものでございますので、やはりその個人の責任で飲み水として飲めるのか、そういったところを個々に考



えていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

なかなかちょっと融通が利かないというんでしょうかね、ちょっとやっぱり私が期待している答弁ではなかったのでもっと残念に思いました。

6番目でございます。この道路啓開計画という、あんまり聞き慣れない言葉なんですけれども、ふだんここにも書いてあるとおり、こういった救援とか物資だとか、そういった輸送を円滑にするためにというふうなことなんですけれども、先ほど市長の答弁では、国に働きかけていくというような、そういった趣旨のご答弁だったと思うんですけれども、これは、例えば津波で想定される浸水域で壊滅的な被害があった場合、どの道路を優先的に復旧させて、どの事業者に声をかけるとか、瓦礫をどこに運ぶとか、そういった細かいところまで書かれているというようなことをちょっと聞いたんですけれども、そこら辺はどのようなことになっておるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

当市の地域防災計画という中に、災害時の緊急輸送路の指定というふうなうたってありまして、そちらのほうに、要は優先順位ということで、例えば北陸自動車道とか国道とかというふうな、指定はうたってあります。一応そちらのほうにつきましては、災害問わず、要は利用するというものでありますし、あと主要な道路がふさがりますと、当然、迂回路等も必要になってきますので、その場合は、建設課、ほか農林水産課等、調整しまして、どの迂回路が通るか等、調整させた上で対応のほうをさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

分かりました。ありがとうございます。

7番目であります。消防機械というんでしょうかね、消防台数というんでしょうか、調べましたら33台あるようなんですけれども、どのような基準で配置されているのか、仮に道路が分断された場合、消火活動に支障が出ると思えますけれども、バランス的に問題はないのか、そこら辺をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

消防本部につきましては、渡辺議員、33台どの数字を拾ったかちょっと分からないんですけども、消防本部、両分署・分遣所も含めまして25台、それと消防団は積載車等も含めまして75台保有しております。

そんな中で、今言われたとおり人員、あるいは資機材、特に車ですね、それから署所の配置等につきましては、消防力の整備指針という、総務省消防庁から、消防力の整備指針というのがございまして、それを基にということなんですけど、ただ、その数字に近づけるということになると、相当な職員数、車両、署所につきましては、大体適正かと思うんですけど、そんな中で配置をしております。

ただ、その指針に基づいてということではなく、やっぱり地域事情等々もありますので、そんなことを勘案し、適正な車両配置、また職員配置等をしているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

すいません、ちょっと台数のほう、失礼いたしました。

(8)であります。先ほど市長の答弁ですと、検討してくれるのかなと思ったんですけど、そうでもなさそうな答弁だったような、聞こえたんですけども、あまり人の市は言いたくないですけども上越市は1月の16日に市長が公営住宅の検討を指示して、19日に受入れを発表したとあります。能登の珠洲市とも交流があったと聞いたので、やるなら早く決断をしてほしいなというふうに思います。被害から復旧されるまで、かなりかかりそうですし、将来的に糸魚川市民になってもらえるかもしれませんので、そこら辺はいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

公営住宅の受入れにつきましては、能登半島の被災者の受入れがメインになってくるかと思うんですけども、一時的な住宅の提供だけでなく、あと通学とか通勤、あるいは買物とかの生活全般にわたることから、対策本部を中心にしまして、関係課と協議をする必要があると捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

そうすると、いつぐらいまでやっていただくかどうかというのが、いつまで待ってればいいのか、変な言い方ですけども、そこら辺はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

市民のほうに関しましては、今現在、受入れのほう行っておりまして、それ以外につきましても、今、県のほうに報告のほうをしている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

よろしくお願ひいたします。スピーディーにやっていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

（9）であります。人命や生活に関わる対策ということで、不安をあおるつもりはありませんけれども、続けて震度5強クラス以上の揺れが襲うかもしれません。米田市長は、新年度予算を表す1字として「添」という字を示されました。「添」という字だったと思います。米田市長、改めてメッセージといたしますか、市民の皆さんに、ちょっとお願ひをしたいんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

行政の一丁目一番地といたしましうか、一番のやはり目的は、市民の生命の保障であり、安全を守ることだと思っております。そのようなことで、災害については、やはり行政の最前線で対応していく所存でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

よろしくお願ひします。

次に、2番目でございます。（1）であります。予算は、この単一年度で完結するのが原則ということで、1つの事業、あるいは事務が、単年度で終了せずに、後の年度においても負担、イコール支出をしなければならない場合には、あらかじめ後の年度の債務を約束することを予算で決めておくことというふうに理解をしております。

ただ、このデメリットとしては、やはりこの財源の見通しもなく、安易に債務負担行為を設定し、事業の拡大を計画することは、将来の財政運営に大きな負担を残すことに留意とあります。糸魚川市は大丈夫なのかという素朴な疑問なんですけども、一応、令和5年度から令和9年度まで12億4,200万円とあります。今後、金利の上昇だとか、資材の高騰、あるいは人件費のアップ、あるいは避難所等を理由に、この枠を超えることはないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回、事業者を募集する際に、募集要項を定めて、事業者を募集することとしております。その中で、今回言いました金額12億4,200万円ですか、そちらにつきましては、限度額ということで、こちらのほうに依拠するような事業者から提案をしてもらいたいというふうに考えております。

しかしながら、今後、今、議員おっしゃられますとおり、急激なインフレであるとか、そういったような外的な要因によりまして、契約締結後、そういった事案が発生したような場合には、また双方協議の上、そういったような対応を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ちょっと遠回し的な言い方だったと思うんですけど、基本的には上がるかもしれないということで理解してよろしいのでしょうか。そういった外的要因があれば、やはりこの枠よりも超えてしまうということで理解してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

原則は今ほどの12億4,200万円を限度額とするものでありますが、やはりそちらの価格高騰等については、それぞれのリスク分担ということで、今回、募集要項のほうにも書いてありますが、そういった中での表現によりまして、そういった事案が発生した場合には、双方話合いのほうを進めていくといったこととなります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

今ちょっとはっきりしたことを聞いたので、必ずしもこの枠ではないということが分かりました。

（2）番であります。この自由に使える財源というふうにさせていただいたんですけども、通常、いつも経常収支比率というんでしょうか、それはどうなっておるのかということですね。窮屈なこの財政状況となっていないかということ、少し確認させていただきたいんですけども、使い道が決まっている経常支出に、いつも入ってくる経常収支がどの程度充当されているかを、比率で示していると理解しておりますけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

では、私のほうからお答えします。

経常収支比率、令和4年度の決算、予算はこれからなので、まだ類推ですよね。令和4年度は決算は決まっておりますので、これが直近です。94.7%という数値で、経常収支比率は定めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

そうですね、これは結構高い数字だというふうに思っておるんですけども、やはり結構、窮屈というですかね、5.3%というんですか5.3ポイントでしょうかね、しかないということなんでしょうかね。ですからかなり、あまり、ちょっとお金というか、非常に窮屈なんでしょうかね。自由に使えるお金があまり少ないというふうに理解してよろしいかと思うんですけども。本当に糸魚川市は軟弱な地盤や急峻な地形で災害が比較的多いというような、よく米田市長も答弁されるんですけども、この突発的な支出というんでしょうかね、やっぱりそういったものが多いということです。どんなに有能なこの市長さんですら、お金がない、ないと言っているのは実情だと思うんですけども、そこら辺改めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

今、議員が言われた突発的だという表現をされましたよね、具体的にどんなイメージでしょうか。一つは災害ということになると思います。そういったところは臨時的な経費という形になりますので、そこは起債のほうでも、かなり法律で充当率がよくなってまいりますので、一般財源の持ち出しというのはあんまりないんですね。国庫補助金だとか負担金、そういったところの要素がありますので、そういった突発的な部分については、国からの要因というのもありますし、いろんなケースがあると思いますが、一例とすれば、災害というところについてはそういった国の別枠の支援がありますので、そういったところに対応をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

大変失礼いたしました。勉強し直しますので、よろしく願いいたします。

(3)であります。当市の人口も、2050年には2万2,000人台となって、半分ぐらいになりそうだと。しかもその半分ぐらいが65歳以上を占めるというようなことなんでしょうけれども、統計といいがわの令和5年度統計要覧では、令和2年度以降200人を割ってしまって、令和2年

は195人、令和3年が165人、令和4年が176人、今年度の令和5年は、まだ書いてありませんけど130人というふうに聞いております。これが実態だということなんですけども、これどう思われるか。

それとまた、2月の1日に「糸魚川市における将来の保育のあり方を考える」の坂崎隆浩先生の研修会では、令和12年には予想としながらも、出生数が93という数字が掲載されていました。4年後を見据えた場合に、対象者がさらに減少すると考えられることや、現在も定員割れの保育施設があることにどう思われておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

昨日も答弁させていただいたとおり、小規模園も増えてきているというのは議員おっしゃるとおりです。

ただ、そういったところは、昨日も答弁させていただいたように、適正な子供の学びをしっかりと担保しながら、適正配置を行っていく。また、財政的に有利な民営化も検討していくというところを、これから検討を加速させていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

やっぱりちょっと私は無理があるんじゃないかなというふうに思います。そこまでしてまでというわけじゃないんですけども、そうではないような気がいたんですけどもね。

次のところなんですけども、庁内に人口減少対策推進本部と少子化対策プロジェクトチームというものを設置しましたけれども、米田市長にどのようなことを進言して、この成果を出そうとしているのか。また、この議事録というのを取っているのか、そこら辺をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

人口減少対策のプロジェクトにつきましては、5月から会議のほうをしておりまして、トータルで10回ほど開催してまいりました。情報収集、それから分析、情報発信、効果検証、人口減少・少子化対策事業の新設、それから再編といったところを検討してきたところでございます。進言ということでこの流れでいきますと子育て支援の複合施設についてのということだと思っておりますけれども、若い方の定住ですとか、希望する方が安心して妊娠・出産、子育てができる環境整備というのは、人口減少・少子化対策としても必要だというふうに考えておりますし、今回の件につきましては、特段プロジェクトの中で検討して、何か進言したといったことはございませんでした。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

そうすると、あまりこういったチームというのを設置したんだけど、なかなか今のところ効果がないというんでしょうかね、実態はそういったところだということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

失礼しました。今回、先ほどこんな形でという流れは申し上げたんですけども、特に力を入れて検討した部分としては、若年層を中心とした人材確保といったところに着目をして、例えばUターン促進による担い手の確保だとか、そういったところについて検討を重ねてきたというところでございます。

あと、先ほどすいません、会議録というお話ですけども、会議録形式で取ったものですか、メモ形式で取ったものもございますけれども、事務局の打合せ程度のものについては、記録がないものもございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

何かちょっと分かったような分かってないような答弁だったんですけども。

（4）に行きます。

ビーチホールまがたまで、擬似的な場所ということでさせてもらったんですけども、当日は44名ということで園児の方が来てました。4年後の令和10年では、利用する人数が、予想というんでしょうか把握というのはされておるんでしょうか。

また、月曜日から金曜日は、ほとんど利用しないんじゃないかと。それと相当広く感じておりますんで、かなり大型で、豪華な遊具を設置しないと埋め尽くされないんじゃないかと。この450平米というのはかなり大きいというふうに思っておるんですけども、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回の糸魚川の子育て支援センターが、現在、やまのい保育園に併設されておりますが、そちらが今回の駅北の子育て支援複合施設のほうに移動してまいりますので、そこへの利用の方というのが、今後も引き続き、対象者が変わってまいりますけども、継続して利用されるものというふうに考えております。

また、広さの部分につきましては、450平米ということでございましたが、当日、糸魚川市東

保育園の園児44名、併せて一般の利用者の方も含めまして、約50名ぐらいの方が利用されておりました。そういったものを見ますと、今回の450平米、先ほど市長答弁にもありますが、ある程度の広さを確保できてるのではないかというふうに捉えております。

また、広さの部分でいいますと、来られる利用者の方にとりまして、確かにある程度広さがあつた方が、なかなか利用者同士お話しにくい、苦手な方にとっては、ある程度の広さが必要だといったご意見を頂いております。

あわせまして、また、遊具につきましては、今後のまた検討ということで、どういった遊具を置くのか、来られる子供の方にとって、よりよいものになるような形で検討を進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ちょっと私はやっぱり利用者がいないことには始まらないというふうに思っておるんですけども、そこら辺がどうもやっぱり説得力がないというふうに私は思っております。

(5)であります。ここは、新保議員が津波のことを心配されておりました。ふるさと糸魚川市は、子供の頃から大きな地震がなくて、比較的安全なところだというふうに思っておりました。むしろこの首都圏直下型地震が心配でしたけれども、新保議員の予知能力というのは、大したものだというふうに思っております。

気持ちを入れ替えて、本当にこの場所が、この児童にとって安全な場所なのかということなんですけど、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回、津波のせり上がりの浸水深の想定が50センチ未満であるというふうに想定されております。そういった中で、仮に1階で利用された方が2階に上がれば、ある程度の高さが確保できますので、そういったところでは、今回、津波等に対する部分については、100%安全であるということはい切れませんが、今の想定では安全だというふうに考えております。

また、それ以外の災害等につきましても、各施設のほうでの避難計画等を立てる中で、適切に利用者のほうの避難等、安全確保のほうを図ってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ここは海拔4.8メートルというふうに理解はしておるんですけども、本当にそれで大丈夫かなと、もう本当に想定外のことがやっぱり起こり得るので、本当に私としてはあんまりちょっと懷疑



的にならざるを得ないというふうに思っております。

(6)であります。やっぱり子育て支援といいますかね、私やっぱり必要だと思っております。何も否定するわけでもありません。今あるものをやっぱり活用していくということが賢明で、なぜ危ない橋を渡ろうとしてるのかちょっと分からないですよね。米田市長の政策が功を奏して、この人口が増えて、子供が増えていくんだったら、増えてからでも遅くはないというふうに私は思っておるんですけれども、それで、菅前総理、総裁も、「政治家の覚悟」という本の中に、総務省の試算では、子供が誕生してから高校を卒業するまでに、地方自治体が福祉や教育に負担する公費は約1,600万円に上がると記載があります。かなりの金額なんですけれども、糸魚川市も同じくらいかけているんだろうなというふうに思っております。このほかに利用者が減り、負担だけが毎年加わる当市の箱物に、投資をするというのは、私はちょっといかがなものかというふうに思っておるんですけど、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

施設というのは、造って終わりということではございません。利用者がいて、毎日毎日、毎年毎年の利用者があるわけでございます。

そういった中で、今回、屋内遊戯場というのは、遊びを通じて、子育て世代が家に閉じこもることだけじゃなくて、出てきやすい環境づくりにつながる。また、そちらのものに対して、悩み等をお持ちの方の子育て世代の方が、そこで悩みを打ち明けて、そういったものの解決につなげていく、そういったような意味合いというのを持っております。決して、こちらのほう、遊び場が中心ではありませんけれども、遊びの先にそういった子育て支援、子育て相談の機能といったものを持ち合わせているといったことをご了承いただければと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

私は、ちょっとそれは納得できないと思います。このままでいくと、市民税を上げて、増税かとか、あるいは行政改革などを行って、人を減らしていくしかないのかなというふうに考えております。

続いて、時間がないので権現荘の件に行きたいと思っております。

1月13日に、住民説明会には、米田市長がほかの公務で出席ができなくて、井川副市長さんが来られました。米田市長に来てもらいたかったんですけれども、できれば重ならない日を選んでほしかったというふうに思います。

昭和63年に開業してから今日に至っていますけれども、設置目的は、住民の福祉及び都市と農山村の交流促進に資するためとあって、これまでの事業費の総額が11億8,900万円、補助金等の総額は7億500万円となって、投資してるわけなんですけれども、このように譲渡しなければな

らない事態になってしまっていることをどのように考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃいましたとおり、多額の費用と維持管理費を投入しながらこのように事業を運営してまいりましたが、世の中の環境の変化でありますとかレジャーの変化によりまして、現在、直営での運営が困難になっているという判断から、現在、譲渡に向けた取組をしているものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

住民の意見としては、やはり無償譲渡するのに、やっぱりこの1億円や光熱費等の財政支援が生じることに釈然としないとか、やっぱり料金を抑えてほしいとか、あるいは高齢者いこいの家を継続してほしいという声だと思えます。改めて、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

今ほど住民説明会のお話ありましたが、この中では主に4点あるかと思えます。

今ほどおっしゃられましたように、譲渡などに財政支援があるのかというご意見が1つ。また、今選ばれている事業者が、本当に安定して経営していけるのかというのが2つ目。3つ目につきましては、ぜひ日帰り温泉だけでなく宿泊のほうも再開してほしいという意見が3つ目。4つ目は、どのような状況になったとしても、日帰りだけは最低限運営して行ってほしいというようなご意見があったかというふうに思っております。そういったものをクリアできる事業者に譲渡したいというふうに考えておりますので、そのような交渉をしているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

（3）に行きます。

今回、3月議会で議案提案する予定だったにもかかわらず、その関連する企業も含めて、何が引っかかっておるのでしょうか。経営能力を含めた企業の信用調査というのは、もう急がせれば3日間あれば、大方、1週間あれば調査書というのは上がってくると思うんです。それで、応募者が1者であったんだけど、そんなに時間かかっているということは、かえって不思議と映るんです。

けれども、そこら辺はいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

少し時間がかかっている主な理由について説明をさせていただきます。

当初、こちらのほうは財政支援の希望ということで、提案の事業者から財政的支援の希望がございました。こちらの財政支援の希望につきましては、設備投資、修繕費の支援、また、日帰り温泉の経営継続への支援、固定資産税等への支援等のご要望があったものであります。

ただ、当市としましては、投資や修繕費に関しましては、現在交渉中ではございますが、日帰り温泉の運営に関する経費ですとか固定資産税の免除に至りましては、これまで通常にある既存の制度以外では助成しないという方向で今現在調整しておりますので、そういったところで相手方との意見の食い違いがあり、交渉に時間がかかっているというのが一つ。

もう一つは、市民説明会、また議会等でのご意見の中でも、本当にこの事業者が経営を続けれるのかということをご意見をたくさん頂いておりますので、そういったことを確認するために、相手事業者の経営状況ですとか、そういったものを確認しておることに時間を要しております、当初予定しておりましたこの3月議会での提案を見送り、この先まで少し協議を続けていきたいというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

対象となるたくさんの企業というのはありますので、交渉中止もありだというふうに思います。無理はしないでほしいと思います。

時間はないんですけども、あと東館、何か直営で何かできるんじゃないかなと。例えば直すにしても、この空調設備を半分ぐらいの機能にして、部屋数も半分ぐらいにしたら、ある程度そこでもうけが出たら、また新たに投資、投資というわけじゃないですけど、そういったこともできないのかなというふうに思うんですけど、全部100%やるとすると5,000万円もかかるということになるんですけども、そこら辺どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

先ほどの市長答弁にもありましたが、基本的には、市民への説明ですとか議会への説明の中で、市が直接経営を続けるということは困難であるという判断をしておりますので、市が今の段階で直接経営することではなく、譲渡の方向で調整をしているというものでございます。

また、議員がおっしゃられますような少数で運営をするということに関しましては、やはり少人数であろうと大人数であろうと、経費というのはかかってきますので、少人数での運営というのはさらに困難になってくるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

1回でも利益出てるんですよ。この数字が粉飾でなければ、本当に利益が出せる施設だと私は思うんですよ。米田市長もこの民間出身だというふうに私は聞いておるんですけども、やっぱり改めて挑戦するというんでしょうかね、直営でやってみよう、もうけを出してみようということは思いませんか。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

リニューアルいたしまして、黒字化させていただいたわけですが、しかし、前提で目標に上げた数字には達しませんでした。しかしながら、やはりそういった私たちは、それを何で2年でといった形を取ったかという、やはり収益が上がる施設でありますから、民間の方々が引き受けてもいいです、引き受けてもやれる施設ですよという意思表示をしたかったわけですが、それが1年で、指定管理をさせていただきました。そして、今もなお、この施設はやはり初期の目的、そしてさらに地域の宿泊施設の核となっていたわけですが、そういった事柄について、民間のほうがやはりノウハウをいっぱい持っておりますし、そういった知恵を持っております。非常に設立当時と違って、現在、いろんな宿泊施設が増えておる部分もあると思っておりますし、観光客というのは、やはり広く求めていかなくちゃいけないわけですが、それに対応するノウハウを持った民間に譲渡して、その目的を達していただきたいという形で取り組まさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

市の大切な財産なので、やはり大切にしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を25分といたします。